

A．主な動き

1．内政

▼大統領再選挙に向けた動き

・9日、与党連合AEIは、大統領候補者選定につき、共産党と協議を開始する旨発表。

・11日、ナントイ・モルドバ公共政策研究所所長(元民主党議員)は、大統領再選挙への立候補を表明。同日、共産党は、同党の大統領候補としてタルマチ元モルドバ中央銀行総裁を推薦する旨発表。

▼12月16日実施大統領選挙の憲法裁判所による無効判断

・12日、憲法裁判所は、2011年12月16日の大統領選挙の際に、複数の議員による秘密投票に関する憲法規定への違反行為があったとし、同大統領選挙を無効とするべきとするゴーチャ議員(無所属、元自由民主党第一副党首)の請求を認め、大統領選挙において大統領が選出されなかったことを確認する旨の2011年12月23日付議会決定、及び、大統領選挙再選挙を2012年1月15日に実施する旨の2011年12月28日付議会決定を無効と認定。

・12日、フィラト首相及びギンブ自由党党首は、憲法裁判所の判断につき議論の余地はあるものの、議会は決定を受け入れなければならない旨発言。ルプ大統領代行兼議会議長は、投票用紙の公開は憲法違反でない旨、改めて指摘。ムンチャン共産党執行書記は、政権与党は憲法裁判所を私物化した旨AEIを非難。

・13日、政権与党AEIは、政治危機克服のための戦略を15日に提示する旨発表。

2．経済

▼金融・財政

・11日、モルドバ中央銀行は、2011年1月～9月期において、モルドバへの外国からの直接投資が対前年同月比36.4%増の2億670万ドルと公表。

・13日、モルドバ国家統計局は、2011年1月～11月期の鉱工業生産が対前年同期比8.9%増と発表。

▼その他

・10日、フィラト首相は、モルドバ政府がEUと信頼醸成プログラムに基づく財政合意書に署名した旨発表。5年間の本プログラムの予算は1,310万ユーロであり、うち1,200万ユーロは欧州基金、110万ユーロはUNDPより提供。

3．沿ドニエストル

▼シェフチューク「大統領」の動き

・10日、シェフチューク「大統領」は、「最高会議」幹部会において、ステパノフ前「産業相」を「首相」に指名、18日の最高会議においてその賛否につき審議の予定。

・12日、シェフチューク「大統領」は、ウクライナ外務省にてグリシチェンコ外相と会談。沿ドニエストル紛争解決、安全地帯の状況、沿ドニエストルに居住するウクライナ人の権利保障等の問題につき協議。「5+2」者会談の継続につき確認。

▼新首脳部とEU側代表団との会談

・10日、シェフチューク「大統領」は、ライチャク欧州対外活動庁欧州・中央アジア局長兼「5+2」者協議EU代表、シューベル駐モルドバEU代表等と会談。地域内外の政治課題に関し議論。同日、ヤストレブチャク「外相」代行、シュタンスキ「沿ドニエストル問題担当特使」、カミンスキー「最高会議議長」が、EU代表団とそれぞれ会談。

・10日、ヤストレブチャク「外相」代行は、プレシゲルOSCE特使代理と会談。モルドバ・沿ドニエストル紛争解決過程の状況につき協議。平和維持部隊が駐留する「安全地帯」での緊張を高めてはならないと指摘。沿ドニエストルとOSCEの協力関係の展望につき議論。

・11日、ベリャコフ沿ドニエストル側合同管理委員会共同委員長は、平和維持部隊の任務の重要性に鑑み、その人員、検問所の数は現状どおりとし、武装解除についても行わないと発言。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)